

科目ナンバー: (GS)ACC591J

科目名		科目群	単位	配当年次	担当教員
公会計研究		B群	2	1・2	東 信 男
授業の概要・到達目標					
<p>(概要)</p> <p>公会計とは、公的部門の会計のことである。本授業では、我が国における公会計の全体像を把握できるように、国及び地方公共団体に加え、国の政策実施機関である独立行政法人と、地方公共団体が経営する地方公営企業を取り上げている。国及び地方公共団体の公会計制度は、現金主義会計・単式簿記を採用しているが、説明責任の履行、財政活動の効率化等を図るうえで課題があることから、近年、公会計改革が行われ、発生主義会計等の企業会計の手法が導入された。一方、独立行政法人及び地方公営企業の公会計制度は、発生主義会計・複式簿記を採用しているが、企業会計とは異なる会計処理が行われている。</p> <p>本授業では、国及び地方公共団体について、公会計の現行制度について解説するとともに、公会計改革の背景にある現行制度の課題を論じる。そして、国及び地方公共団体で行われた公会計改革を取り上げ、新たに作成されるようになった財務書類について解説するとともに、発生主義会計情報の活用事例を紹介する。また、独立行政法人及び地方公営企業について、制度設計とともに、それを反映させた公会計の現行制度について解説する。さらに、公監査についても取り上げ、国の会計検査制度及び地方公共団体の監査委員監査制度・外部監査制度について解説するとともに、公会計との関係を論じる。</p> <p><到達目標></p> <p>我が国の公会計制度と公監査制度、国及び地方公共団体の公会計改革、国際公会計基準(IPSAS)について専門的知識を体系的に習得すること。また、財務書類を用いたコスト分析及び財政分析を行い、実践的な問題解決能力を習得すること。</p>					
授業内容					
1	a. イントロダクション b. 国の財政状況と会計情報	授業の概要と日程、及び課題演習と課題レポートの概要			
2	公会計の枠組み	公会計の定義と目的、公的部門の経済主体と経済活動、公的部門の予算と法令、公的部門の会計と財務報告、及び公的部門の政策			
3	国の公会計制度(1)	国の予算・決算制度			
4	国の公会計制度(2)	国の財産管理制度			
5	国の公会計制度(3)	国の政策評価制度			
6	国の公会計制度(4)	国の公会計改革(1)			
7	a. 国の公会計制度(5) b. 第1回課題演習(コスト分析)の説明	国の公会計改革(2)			
8	独立行政法人の公会計制度	独立行政法人の制度設計及び固有の会計処理			
9	地方公共団体の公会計制度(1)	地方公共団体の予算・決算制度			
10	地方公共団体の公会計制度(2)	地方公共団体の公会計改革(1)			
11	a. 地方公共団体の公会計制度(3) b. 第2回課題演習(財政分析)の説明	地方公共団体の公会計改革(2)			
12	地方公営企業の公会計制度	地方公営企業の制度設計及び固有の会計処理			
13	国際公会計基準(IPSAS)	国際公会計基準(IPSAS)の基礎概念及び基準			
14	a. 国の公監査制度 b. 課題レポートの説明	国の会計検査制度			
15	地方公共団体の公監査制度	地方公共団体の監査委員監査制度・外部監査制度			

履修上の注意点

予習を行い、授業中の質疑応答に積極的に参加すること。課題演習の発表と討論では、発表するだけでなく、他の受講生の発表に関する討論にも積極的に参加すること。なお、授業内容は受講生数により変更することがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

第2回以降の授業は、テキストの章ごとに行うので、予習として該当章を読了するとともに、当該章末にある演習の解答を作成しておくこと。

教科書

担当教員が作成したテキスト「公会計の理論と制度－国及び地方公共団体の公会計制度と公会計基準のグローバル・スタンダードー」を使用する。第1回のイントロダクションで配布するので、授業に持参すること。

参考書

テキストの参考文献を参照すること。

成績評価の方法

授業での質疑応答、討論等への参加度30%、課題演習30%、課題レポート40%

その他

この授業は、担当教員の実務経験を活かした実践的な内容になっている。